

附属幼稚園の教育 (6)

二学期の保育

(夏休みの後で)

村石 京

長かった夏休みが終わって二学期が始まりました。子どもたちは、幼稚園が始まるのを今日か明日かと指折り数えて待っていたことと思います。

「さあ、今日から幼稚園」と張り切って元気よく登園して来ます。

保育者も夏休みという充電期間があつて、身心ともにリフレッシュ、少し気持ちにもゆとりが出て来て、子どもたちとの再会を楽しみに心待ちしています。一学期の疲れやあせり、ストレスを洗い

流せる夏休みは、保育者にとっては嬉しい期間といえるでしょう。

大部分の子どもたちは、この休み中に日焼けしたり、背が伸びたりして一まわり大きくなったような感じがします。そして久しぶりに出会った友だちとも、数十日間のブランクを乗り越えて、すぐに遊び出します。

その様子は一学期と比べてみて、それぞれがより元気にたくましくなり、興味や関心も広がっ



て、休み中の家庭生活の中で成長が感じられる面もいろいろとあります。保育者は、新しい気持ちでこの子どもたちの様子をしっかりと受けとめ、その変化成長に合わせた対応をはかっていくようにしたいものです。

しかし中には、長い夏休み期間に友だち関係がとぎれていたためとか、あるいは引っ込み思案の傾向のある子どもなどは、環境の変化に不安定になったり、入園当初のような感じに逆戻りして自分を出せないでいたりする様子が見られるような場合もあります。保育者はそうした子どもの様子をよく把握して、安心出来るような言葉かけをしたり、友だち遊びへの媒介役をとったりして、気持ちがほぐれて、元気に遊び出せるようにきつかけをつくっていくことも必要です。級の中にいる子どもたちの一人ひとりがみな違った心を持っているわけですから、その一人ひとりをよく受けとめ、理解し、その子どもに合わせた対応をし、そ

の子どもの必要としている援助を行っていくことが何より大切と考えます。

また二学期の始まりには、園生活の中でのきまりや生活習慣などに関しても、忘れてくずれたりしている場合も見られます。保育者はこれらのことにも留意し、夫々の子どもがどの程度覚えていくかを見直し、よく身につけていくことが出来るように働きかけていくことも必要です。例えば四月入園の子どものいる三歳児、四歳児の級では、自分の持ち物の置き場所とか、手洗いやうがいのこととか、遊具玩具を使った後の片づけなど、一人ひとりに声をかけていくことも必要です。また遊んだ後でみなでする後片づけなどは、教師が率先して行動しながらも、子どもの気持ちやそのことへ向かうように、促したり、励ましたり、認めたりしていくことが大切です。

そして何より二学期の大きな特徴としては、一学期に比べると遊びがぐんと広がり、工夫が見ら

れるようになるということを上げることが出来ま
す。これはどの年齢においても言えることで、三
歳児は三歳児なりに、四歳児は四歳児なりに、そ
して五歳児は五歳児として、遊びの深まりが出て
きて、遊びの中で工夫したり考えたりするように
なってきました。保育者としては、遊びの展がりや
工夫に必要な素材を手近に用意したり、子どもの
要求に合わせて、子どもの思いが実現出来るよう
に援助したりしていきたいと思います。そして遊
びがより楽しくなるような環境設定の工夫をした
り、この時期にふさわしい遊具や材料を準備した
りすることも必要です。

そして子どもたちの遊びが長続き出来るよう
に、教師も遊びのメンバーの一員として参加し
て、意見を言ったり、協力したりしながら遊びを
構成し、盛り上げていくような工夫も必要です。
そして更にある場合には、子どもたちが充分遊ん
でいる最中には、子どもたちの世界を教師が介入

することで崩したり、子どもが依存的になったり
することのないように、中に入らずに見守ってい
くという配慮が必要な場合もあります。それはそ
の状況に合わせた適切な行動をとることが、子ど
もたちと日頃深くかかわっている担任としての配
慮といえると思います。

またこの学期は一学期と比べて、友だち関係が
ぐんと深くなっていく時期ということも大きな特
徴と考えることが出来ます。仲のよい友だちが出
来て、朝からその子と遊ぼうと思っ待っている
様子が見られたり、年長児などは仲よしのグルー
プが出来て、遊びが一だんと楽しく活気が出て来
るのが見られます。保育者は、この友だち関係な
どについて、一人ひとりの様子をよく把握してい
くことが大切です。三歳児、四歳児でまだうまく
友だち遊びの仲間に入れないでいる子どもや、気
の合う友だちを見つけられないでいる子どもがい
れば、友だち遊びの深まっていく時期にそのタイ

ミングをはずしてしまうことのないように、教師が遊びのきっかけをつくったり、友だち同士への橋渡しの役をとって誘いかけをしていくことも必要です。あるいは仲よしが出来ても、それが閉鎖的になって他の子を排除したりする傾向が見られたいりするような場合は、そのまま見過ごすことなく適切な指導をしていくことが大切です。それから年長児などはよくグループ遊びをしますが、そのグループの中での子ども同士の力関係とか、グループとグループの拮抗とか、深くかかわってみるといろいろと問題が見られることもあります。外側から遊びを見ているだけでは読みとれないことや、子ども一人ひとりの気持ちなどをよく知るためには、やはり教師も遊びの中へ仲間入りして、その場その場に応じた適切な配慮やアドバイスをしていきたいものと考えます。

二学期の保育の中で大切なことは、遊びを深めることと、人間関係をよく育てていくことにある

のではないでしょう。二学期は期間も長く、多彩な計画もあり、変化に富み充実した学期です。それらの日々の中で、子どもたち一人ひとりが夫々に充分遊んだという満足感を持てるようにありたいと思います。子どもたちが充分遊びこむことが出来るような多くの配慮、それは教育計画であったり、環境設定であったり、担任の教師の心づかいであったり、いろいろあるわけですが、それらがみな子ども同士のかわりを深め、遊びを一だんと楽しくしていくものであることが肝要です。そして遊びを通して、子どもの中に、相手に協力する気持ちや、相手を受けいれていく気持ち、思いやりの心、相手と共感する心などが生まれ、よい友だち関係が育っていくようにということが、保育者として最も留意していかなければならないことであると思います。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)